

1. 申請者は、Form 1 の該当部分に必要な事項を記入して埋めてください。
2. 申請者は、Form 2 から Form 5 の該当部分に、検証申請する記録速度及び自己検証結果を記入して埋めてください。
3. 検証機関（テストセンター）での検証が完了次第、その結果（測定値）は申請者へ通知されます。
4. 最終的な認証結果の可否は、JIIMA 認証審査委員会の承認後、協会事務局より申請者へ通知されます。

<テストセンターのコンタクト先>

パイオニア ベリフィケーションラボラトリ

住所：〒112-0002 東京都文京区小石川5-5-5 プライム茗荷谷ビル

電話：03-6634-9272

メールアドレス：tcenter_bd@post.pioneer.co.jp

Form 1: JIIMA アーカイブ用光ディスク製品 (BD) 検証に関する申込書

受付番号 (検証機関にて記入)	
申込日 (yyyy. mm. dd)	
検証機関受付日 (yyyy. mm. dd)	

JIIMA アーカイブ認証基準について、検証の対応規格を選択すること。

<input type="checkbox"/>	JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応
<input type="checkbox"/>	JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

検証に使用する BD ドライブとディスクについて、以下に記すこと。

ドライブ	型番	
ディスク	型番	

上記の BD ドライブを JIIMA 検証に申し込む申請者について、以下に記すこと。

申込者名	
役職	
会社名	
会社住所	
電話番号	
E-mail アドレス	

申込者 署名 : _____

上記の BD ディスクを JIIMA 検証に申し込む申請者について、以下に記すこと。

申込者名	
役職	
会社名	
会社住所	
電話番号	
E-mail アドレス	

申込者 署名 : _____

備考

Form 2: HTL 120mm SL Disc (25GB) の記録特性試験表

Form 2-1: 認証基準 : JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値		判定
			申請者	検証機関	
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 0 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 0 全域	< 800 bytes			

注記 : 測定値は、測定範囲での最大値を記入すること。

Form 2-2: 認証基準 : JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値*1)		判定
			申請者	検証機関	
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	< 800 bytes			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$\leq 2\ 048$			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

注記 1 : RSER, BE の測定値はデータ交替後の値とし、測定範囲での最大値を記入すること。

注記 2 : 検証時の基準値は 2 048 以下とする。(実使用時は確保したスペアクラスタ数で運用)

注記 3 : 交替クラスタ数が 0 の場合は、別ディスクを使用して DM 機能チェックを行うこと。

(記録データの交替が発生するディスクを使用し、RSER、BE を測定する。交替クラスタ数は参考値)

Form 3: HTL 120mm DL Disc (50GB) の記録特性試験表

Form 3-1: 認証基準: JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応

記録速度: _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 0 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 0 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 1 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 1 全域	$< 800 \text{ bytes}$			

注記: 測定値は、測定範囲での最大値を記入すること。

Form 3-2: 認証基準 : JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値*1)		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	< 3.5×10^{-4}			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	< 800 bytes			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	< 2 048			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	< 3.5×10^{-4}			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	< 800 bytes			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	< 2 048			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

注記 1 : RSER, BE の測定値はデータ交替後の値とし、測定範囲での最大値を記入すること。

注記 2 : 検証時の基準値は 2 048 以下とする。(実使用時は確保したスペアクラスタ数で運用)

注記 3 : 交替クラスタ数が 0 の場合は、別ディスクを使用して DM 機能チェックを行うこと。

(記録データの交替が発生するディスクを使用し、RSER、BE を測定する。交替クラスタ数は参考値)

Form 4: HTL 120mm TL Disc (100GB) の記録特性試験表

Form 4-1: 認証基準: JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応

記録速度: _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 0 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 0 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 1 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 1 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer2					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 2 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での、 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 2 全域	$< 800 \text{ bytes}$			

注記: 測定値は、測定範囲での最大値を記入すること。

Form 4-2: 認証基準 : JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値 ^{*1)}		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 1000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$< 800 \text{ bytes}$			
交替クラスタ数 ^{*2)}	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$< 2\,730$			
DM 機能チェック ^{*3)}	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 1000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	$< 800 \text{ bytes}$			
交替クラスタ数 ^{*2)}	ユーザデータ領域 全域 (L1)	$< 2\,730$			
DM 機能チェック ^{*3)}	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

(Form 4-2 の続き)

Layer2					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$< 800 \text{ bytes}$			
交替クラスタ数 ^{*2)}	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$\leq 2\,730$			
DM 機能チェック ^{*3)}	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

注記 1 : RSER, BE の測定値はデータ交替後の値とし、測定範囲での最大値を記入すること。

注記 2 : 検証時の基準値は 2 730 以下とする。(実使用時は確保したスペアクラスタ数で運用)

注記 3 : 交替クラスタ数が 0 の場合は、別ディスクを使用して DM 機能チェックを行うこと。

(記録データの交替が発生するディスクを使用し、RSER、BE を測定する。交替クラスタ数は参考値)

Form 5: HTL 120mm QL Disc (128GB) の記録特性試験表

Form 5-1: 認証基準 : JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 0 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 0 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 1 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 1 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer2					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 2 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 2 全域	$< 800 \text{ bytes}$			
Layer3					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	Data Zone 3 全域	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	Data Zone 3 全域	$< 800 \text{ bytes}$			

注記 : 測定値は、測定範囲での最大値を記入すること。

Form 5-2: 認証基準 : JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

記録速度 : _____ X

測定項目	測定場所	基準値	測定値*1)		判定
			申請者	検証機関	
Layer0					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	< 800 bytes			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L0)	$\leq 2\ 730$			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	
Layer1					
Random SER (RSER) (連続した 10000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の バーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	< 800 bytes			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L1)	$\leq 2\ 730$			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

(Form 5-2 の続き)

Layer2					
Random SER (RSER) (連続した 1000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の パーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$< 800 \text{ bytes}$			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L2)	$\leq 2\,730$			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	
Layer3					
Random SER (RSER) (連続した 1000LDC ブロック の平均値)	ユーザデータ領域 全域 (L3)	$< 3.5 \times 10^{-4}$			
各 RUB での 40 バイト以上の パーストエラー 合計長 (BE)	ユーザデータ領域 全域 (L3)	$< 800 \text{ bytes}$			
交替クラスタ数*2)	ユーザデータ領域 全域 (L3)	$\leq 2\,730$			
DM 機能チェック*3)	任意	同上 (RSER & BE)	交替クラスタ数 RSER BE	交替クラスタ数 RSER BE	

注記 1 : RSER, BE の測定値はデータ交替後の値とし、測定範囲での最大値を記入すること。

注記 2 : 検証時の基準値は 2 730 以下とする。(実使用時は確保したスペアクラスタ数で運用)

注記 3 : 交替クラスタ数が 0 の場合は、別ディスクを使用して DM 機能チェックを行うこと。

(記録データの交替が発生するディスクを使用し、RSER、BE を測定する。交替クラスタ数は参考値)

Form 6: 検証の確認書

以下の製品の初期記録品質は、下記 JIIMA アーカイブ認証基準に準拠していることを確認しました。

<input type="checkbox"/>	JIS Z 6017 対応 または JIS X 6257 (欠陥管理非適用) 対応
<input type="checkbox"/>	JIS X 6257 (欠陥管理適用) 対応

ドライブ	製品名		
	型番		
	申込者	名前	
		会社名	
		住所	
		電話番号	
E-mail			
ディスク	製品名		
	型番		
	申込者	名前	
		会社名	
		住所	
		電話番号	
E-mail			
申込番号			
申込日 (yyyy/mm/dd)			
発行日 (yyyy/mm/dd)			
確認者	署名		
	名前		
	機関名	JIIMA 認証審査委員会事務局	
	住所		
	電話番号		
	E-mail		
付属するもの		1) 試験結果 : 測定値を記入した Form 2) その他 ()	

注記 :

- (1) 検証の確認書は、製品の品質、BD 製品との互換性やディスクの期待寿命を保証するものではない。
- (2) この報告書内の情報は秘密保持契約 (NDA) の下で扱われる。NDA は申込者と検証機関との間で、(年 月 日) から履行される。

改訂履歴

2017.12 Ver. 1.01 <テストセンターのコンタクト先> 住所変更

2022.11 Ver. 1.1 JIS X 6257 欠陥管理対応 (Form 2-2, 3-2, 4-2, 5-2 追加)

2023.7 Ver. 1.11 <テストセンターのコンタクト先> 住所変更